安全の確保

環境への配慮

社会とのかかわり

健全な経営

CSR REPORT 2017

SBS GROUP

CSR REPORT 2017

CONTENTS 目次

3 事業概要

5 特集
「もの」つなぎの30年
総合物流グループへの道のり

9 トップメッセージ

11 SBSグループのCSR経営

13 安全の確保

17 環境への配慮

21 社会とのかかわり

25 健全な経営

27 CSRデータ

29 第三者意見

30 財務報告

編集方針

SBSグループでは、SBSグループが事業戦略と一体的に推進するCSR経営の進捗についてステークホルダーの皆様にご報告するためにCSRレポートを毎年発行しています。

本レポートでは、SBSグループのCSR（経営理念や経営戦略との関わり）、社会的課題解決へ向けた活動（安全への取り組み・環境への配慮）、ガバナンス（健全な経営）、ステークホルダーコミュニケーション（社会とのかかわり）をご理解いただくことを目指しています。

また、さまざまな方にお読みいただけるように、「わかりやすさ」を第一に編集することを心がけています。

ご一読いただき、SBSグループのCSRをご理解いただければ幸いです。

報告内容について

【報告対象範囲】

■ 国内連結子会社（11社）
- SBSロジコム（株）
- SBSフレイトサービス（株）
- 日本レコードセンター（株）
- SBSグローバルネットワーク（株）
- SBSフレック（株）
- SBSフレックネット（株）
- SBSゼンツウ（株）
- SBS即配サポート（株）
- SBSスタッフ（株）
- SBSファイナンス（株）
- SBSアセットマネジメント（株）
- マーケティングパートナー（株）

■ 公益財団法人
- SBS鎌田財団

【報告対象期間】

2016年4月1日～ 2017年3月31日
ただし、一部2017年4月以降の情報を含みます。

【情報開示について】

SBSグループのウェブサイトでは「CSR」の他、最新の情報を逐次発信しています。本レポートに掲載されていない情報の他、IRに関する情報も網羅的に掲載されています。
http://www.sbs-group.co.jp/

【信頼性の向上】

本レポートに掲載の各種活動を始めとする全体の内容について、有識者からご意見をいただき、P29に掲載しています。

会社概要

社名
SBSホールディングス株式会社

代表取締役社長
鎌田 正彦

創立
1987年12月16日

資本金
39億2,075万円

売上高
1,490億円（連結）※2016年12月31日

所在地
〒130-0012　東京都墨田区太平4-1-3

事業内容
物流事業、不動産事業、
マーケティング事業、人材事業 他

CSR Message

「もの」を運ぶということ

「もの」を運ぶことは
「もの」と人をつなげること

「もの」と人つなげることは 人々の暮らしをつなげ
社会をつなげること

私たちはこれからもずっと運び続ける

人々の暮らしの安定と持続可能な社会の実現のために

さまざまな「もの」を最適な

14,509人
従業員数
（内正社員5,132人）

3,750台
保有車両台数
（協力会社車両5,000台/月）

800台
保有フォークリフト台数

425拠点
国内拠点数
（物流施設約260拠点）

2016年12月末時点

総合物流事業 》》

食品物流事業 》》

不動産事業
その他事業 》》

総走行距離（2016年度）

115,915,671km

環境で安全・安心に運ぶ

トラック輸送
モーダルシフト
国際物流
企業向け即配便
法人移転・引越
館内物流
物流センター運営
3PL

流通加工
低温物流
個人宅配達

マーケティング事業
不動産事業
ペット関連サービス
保険・リース
環境事業
人材事業
SBS GROUP

特集 「もの」つなぎの30年

総合物流グループへの道のり

SBSロジコム株式会社

＊SBSロジコム北関東(株)、SBSロジコム南関東(株)を含む

■特徴：オールラウンダー
■従業員数：5,519人
■事業所数(内物流施設)：129(80)
■車両台数(内フォーク)：1,530(503)
■再生可能エネ発電能力：5,342kW

トラック輸送　モーダルシフト　物流センター運営　国際物流　流通加工　法人移転・引越　館内物流　3PL　不動産事業

●Gマーク ●ISO14001 ●グリーン経営認証
●東京都貨物輸送評価制度 ●GPN認証
●ISO27001 ●引越安心マーク

SBSフレック株式会社

＊SBSフレックネット(株)を含む

■特徴：低温物流
■従業員数：3,177人
■事業所数(内物流施設)：139(97)
■車両台数(内フォーク)：816(154)

トラック輸送　低温物流　物流センター運営　流通加工　個人宅配達　3PL

●Gマーク ●ISO14001 ●ISO9001

SBSゼンツウ株式会社

■特徴：食品三温度帯物流・宅配
■従業員数：3,485人
■事業所数(内物流施設)：86(51)
■車両台数(内フォーク)：1,356(30)

トラック輸送　低温物流　物流センター運営　流通加工　個人宅配達　3PL

●Gマーク ●ISO14001 ●ISO9001
●JAS有機農産物小分認証

「何でもできる物流会社をつくる」という強い決意でスタートしたSBSグループは、3つの大きなM&Aを経て総合物流グループに成長を遂げ、今年30周年を迎えます。

類のない配送サービスから、何でもできる物流会社へ

SBSグループの原点は1987年に設立された‘(株)関東即配(東京都江東区)’に始まります。関東即配は関東地域1都3県を対象とした即日配送事業でした。会社設立にあたって、創業者の鎌田正彦には一つの信念がありました。「絶対にこの会社を潰さない。」そして、もう一つ「何でもできる物流会社をつくる」という強い決意がありました。午前中に受託した荷物を当日中に届けるという、当時、ほかに類のない斬新な配送サービスはさまざまな業種の顧客から評価されました。そして、わずか数人のスタッフで関東地域1都3県での即配サービスを展開できたのは、各地域での集配を担う協力会社を集め、各地の集配倉庫を拠点としたハブ&スポークの配送ネットワーク体制を構築できたからでした。

即配業務は安定的に推移するようになり、各業種・各種メーカーの物流拠点業務を担当するような仕事も増えていきました。1989年に設立した‘(株)総合物流システム(SBSホールディングスの母体)’ではメーリング事業が成果を上げるとともに、産業廃棄物の収集運搬業務も開始しました。また、1997年に設立した(株)スタッフジャパン(現:SBSスタッフ(株))では作業現場への人材派遣業務を展開するなど異なるジャンルで成果を上げ「何でもできる物流会社」への道は開けたかに見えました。

「総合 “Sougou”

SBS

物流 “Butsuryu”」

SBS即配サポート株式会社

■特徴:企業向け即配、産業廃棄物中間処理
■従業員数:567人
■事業所数(内物流施設):23(2)
■車両台数(内フォーク):315(41)
■再生可能エネ発電能力:221kW

●Gマーク ●ISO14001 ●ISO9001

SBSフレイトサービス株式会社

■特徴:特殊輸送、海上コンテナドレージ
■従業員数:367人
■事業所数(内物流施設):19(15)
■車両台数(内フォーク):457(58)
■再生可能エネ発電能力:210kW

●Gマーク ●ISO14001 ●ISO9001
●プライバシーマーク

日本レコードセンター株式会社

■特徴:パッケージソフト(音楽・映像媒体)3PL
■従業員数:864人
■事業所数(内物流施設):1(1)
■車両台数(内フォーク):28(19)

●ISO14001 ●プライバシーマーク

小さな力を結集して、大きなところと競っていく存在になる

多様な事業展開で波に乗るかに見えたSBSでしたが、その前に立ちはだかったのは物流業界の構造でした。「この業界は資本の大きいところが強い。そうでないとどうしても下請け、孫請けなどの存在になってしまう。規模が小さいと大きな仕事ができず、また赤字にも耐えられない。この構造から脱却するためには、買収（M&A）で規模を大きくするしかない。そして、小さな力を結集して、大きなところと競っていく存在になる。」鎌田は根本的な改革に踏み切ります。そこでまず取り組んだのが株式上場でした。そして、2003年に時の商号‘（株）エスビーエス（1999年）’でJASDAQ上場を果たします。

M&Aによる業容拡大の皮切りは雪印物流（株）（現：SBSフレック（株））でした。低温物流の専門ノウハウおよび機能を有し、全国ネットワークを展開する十分な実績をもつ優良企業がグループに加わりました。当時売上高193億円規模の企業が、その2倍（381億円）の企業を傘下に収めたM＆A劇は業界を驚かせました。改革が大きく進展し始めた瞬間でした。

翌年には東急電鉄系列の東急ロジスティック（株）（現：SBSロジコム（株））とのM＆A（系列４社を含む５社一括）を果たします。同社は各種物流事業開発で長年の実績を持ち、物流の総合的なノウハウと機能を有した優良企業でした。SBSではこれを機に、同社が有していた人材・施設運用のノウハウを活用して、3PL事業へと踏み出します。

2年連続での名門大手物流企業のM&Aは、業界で大きな話題となりました。また、「社員を大切にする」というひとつの信条のもと、相手側の雇用を守り体制を継承するスタイルが評判となり、SBSの存在は広く知れ渡りました。そんな中、3番目のM&A案件が持ち上がりました。関東圏での生協用生鮮食品物流を中心に事業展開をする（株）全通（現：SBSゼンツウ（株））でした。同社は、三温度帯食品物流・食品宅配のノウハウと実績に優れた企業でしたが、SBSのM&A方針に共鳴し、自らグループ入りを望んだのでした。これによって、SBSグループにまた新たなポテンシャルが加わりました。

■ SBSのM&A方針

相手企業の従業員も設備もそのまま活かす

東急電鉄　「子会社の事業継続をしっかり考えてくれるところへ」

雪印物流　「SBSと一緒になりたいからほかの話は断ってほしい」

SBSグローバルネットワーク株式会社
■特徴：国際物流トータルコーディネート　●AEO認証（予定）
■従業員数：127人
■事業所数：7

マーケティングパートナー株式会社
■特徴：ダイレクトマーケティング、EC支援　●プライバシーマーク
■従業員数：25人
■事業所数：1

SBSアセットマネジメント株式会社
■特徴：物流施設開発　■従業員数：9人
■事業所数：1
■再生可能エネ発電能力：1,552 kW

SBSスタッフ株式会社
■特徴：人材派遣　■従業員数：130人　●プライバシーマーク
■事業所数：18
■車両台数：36

SBSファイナンス株式会社
■特徴：リース、保険
■従業員数：22人
■事業所数：1

2016年12月末時点

3つのM&Aと総合物流グループの誕生

SBSにとってこの3つの案件は、実際にきわめて大きな変化をもたらしました。規模の拡充だけでなく専門物流の機能と多様な実績に裏打ちされたノウハウがグループのものとなったのです。SBSフレック(株)とSBSゼンツウ(株)の2社が加わったことで、SBSグループには低温物流・食品三温度帯物流・食品宅配の確固たる実力が備わりました。現在では、グループ全体の物流事業1,300億円規模のうち、食品関連の物流事業が6割を占めるまでになっています。

もう一つの大型M&Aでグループ入りしたSBSロジコム(株)は、総合物流企業として、3PL(物流アウトソーシング)・トラック輸送・センター運営・倉庫サービス・国際物流など、多種多様なサービスを展開。SBS成長の原動力である3PL事業においても牽引役となっており、グループの中核を担う存在となっています。

そのほかにも特殊輸送・海上コンテナドレージ輸送を得意とするSBSフレイトサービス(株)(旧:日本貨物急送(株))やパッケージソフト3PL物流サービスの日本レコードセンター(株)、SBSグローバルネットワーク(株)(海外輸送、輸出入管理、通関手続き等　旧:(株)エイシーシステムコーポレーション)など、M&Aは10件以上に上ります。

一方で、従来からの事業においては、即日配送事業はSBS即配サポート(株)が産廃処理等の環境事業を含め継承しているほか、それぞれの分野で安定した成長を見せており、M&A組と合わせ専門子会社群が列をなす総合物流グループが形成されています。それはまさに鎌田が標榜してきた「何でもできる物流会社」であり、「小さな力を結集して、大きなところと競っていく存在」なのです。

SBSグループの変遷

SBS GROUP

物流事業

2017

2015/07 再編 SBS即配サポート(株)
2015/01 再編 SBSフレックネット(株)

2011/04 M&A 日本レコードセンター(株)

2010/07 M&A (株)エイシーシステムコーポレーション)
➡ 2013/06 SBSグローバルネットワーク(株)

2006/01 M&A (株)全通 ➡ 2016/04 SBSゼンツウ(株)

2005/06 M&A
東急ロジスティックス(株) ➡ 2006/01 ティーエルロジコム(株)
➡ 2013/06 SBSロジコム(株)
日本貨物急送(株) ➡ 2013/06 SBSフレイトサービス(株)

2004/05 M&A 雪印物流(株) ➡ 2005/01 フーズレック(株) ➡ 2013/06 SBSフレック(株)

その他事業

2005/06 M&A (有)SBSインシュアランスサービス
➡ 2007/03 SBSファイナンス(株)

2004/09 設立 (株)エーマックス
➡ 2016/04 SBSアセットマネジメント(株)

2004/07 再編 SBSスタッフ(株)

1998/03 設立
マーケティングパートナー(株)

1987

1987/12 (株)関東即配 ➡ 1989/04 (株)総合物流システム ➡ 1999/12 (株)エスビーエス
➡ 2006/06 SBSホールディングス(株)

TOP Message

創業30周年を機に、“ものを運ぶ”事業の社会的な意義と責任を見つめ直してまいります。

物流業界においては、長くドライバーや倉庫作業員などの人材不足の状況が続いておりますが、産業界全体を見ても、いつにも増して労働問題がクローズアップされ、働き方改革への取組みを強化する動きが目立っているように感じられます。労働人口減少の時代を見据え、人材の多様性の推進と生産性の向上は、IoT、AIなどの革新的技術の有効活用とあわせて、あらゆる業界における重要な関心事になっていると認識しております。

今年度は、当社の4か年の中期経営計画「SBS Growth 2017」の最終年度であります。事業戦略とCSR経営の一体的推進を掲げ、グループ一丸の取組み強化に努めておりますが、CSRの重点課題についてその取り組み状況を振り返ってまいります。

安全の確保

安全教育の一環として、SBSグループ全体のドライバーコンテストを実施しました。ドラコンは運転技術向上と安全運転意識確認の場として今後一層盛り上げていきたいと考えています。

また、従業員の健康管理強化をより推し進めました。SASスクリーニング検査実施のモニタリング、定期健康診断二次検診のフォローアップ、ストレスチェックの実施・有効利用の各施策へ重点的に取り組みました。

環境への配慮

当社グループが取り組む環境課題を明確にし、着実に実行を進めていくために、新たに「グループ環境経営推進会議」を立ち上げました。これは、当社グループの重要な財産である「車両」、「施設」をベースとして、各々に関連する環境方針の策定から実行まで責任をもって活動する会議体であります。この新たな組織体制のもと、エコドライブ、環境配慮型車両の導入、モーダルシフト、再生可能エネルギー創出などをさらに進めました。

社会とのかかわり

先に記しました「グループ環境経営推進会議」においては、社会貢献についての取り組みも進めてまいります。本業に立脚した交通安全活動については、行政、地域とともに取組んでおりますが、今後はより広範囲な活動を目指していきます。

また、公益財団法人の物流研究助成事業については２期目の助成を完了しました。助成案件の幅が着実に広がっており、業界の発展に貢献できているものと感じております。

健全な経営

コーポレート・ガバナンス強化への社会的要請を受けて、2016年7月、当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な枠組みおよび考え方を「SBSホールディングス コーポレート・ガバナンス・ガイドライン」として取りまとめ、制定いたしました。持続的な成長と中長期的な企業価値向上を実現していくために、株主の権利・公平性の確保、株主以外のステークホルダーとの適切な協働、そして情報開示と株主・投資家との関係のあり方について、当社グループのアプローチを体系的に示すものです。

私たちSBSグループは、本年12月に創業30年を迎えます。

ステークホルダーの皆様方のご支援とご協力により、従業員15,000人の企業グループへと成長することができました。

今改めて、我々のできること - ものを運ぶということ - を見つめ直し、次のステップを社会とともに歩んでいくことをお約束いたします。

SBSグループ代表　鎌田正彦

SBSグループのCSR経営

経営戦略

2014年度から開始した4か年の中期経営計画「SBS Growth 2017」に基づき、事業戦略や投資戦略などにグループ一丸となって取り組んでいます。

中期経営計画「SBS Growth 2017」

■ 当社グループが目指す姿

“全方位の物流機能を有する3PL企業集団”を結成し、日本国内に留まることなくアジアを代表する物流企業として業界トップグループ入りを目指す

■ 中期経営方針

- お客様に選ばれる現場力を磨く
- グループ力を結集する
- ベンチャースピリット集団であり続ける
- 持続的な成長を果たす
- コンプライアンス、CSRを重視する経営を貫く

■ 2016年グループ方針

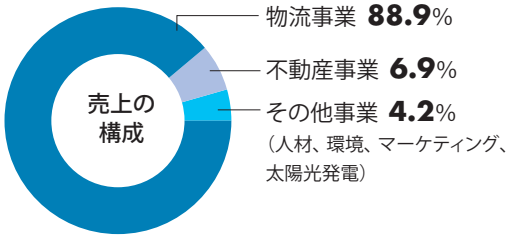
1. 3PL事業のさらなる強化
   提案営業力を一層磨き、新規顧客の獲得と既存顧客の深耕を図る。
2. 物流不動産開発の推進
   “金融とロジスティクスの融合ビジネスモデル”を進化、拡大する。
3. 海外展開の推進
   インド、ASEANにおいて、日本品質の3PLビジネスを展開する。
4. M&Aの積極化
   グループ規模と機能を拡充するパートナーの発掘、獲得を目指す。
5. 営業力とSBSブランド力の強化
   お客様から選ばれ、人々が働きたい企業グループになる。

ビジネスハイライト2016

業績

● 売上高	**1,490**億円
● 営業利益	**75**億円
● 経常利益	**78**億円
● 親会社株主に帰属する当期純利益	**51**億円
● 1株当たり配当金	**33**円

主力の物流事業に物流支援事業を加え、付加価値の高い物流サービスを提供



Topics

過去最大規模、5万坪の物流拠点開設

（SBSロジコム（株））

新規稼働した横浜、埼玉の自社センターのほか、千葉（佐倉、印西、市川）、兵庫（三田）などで合計5万坪の物流拠点を開設。ワイン、百貨店、ネット通販、ドラッグストアなど3PL事業のベースロードが拡大しました。

「東急プラザ銀座」の館内物流を開始

（SBSロジコム（株））

東急不動産（株）様が開発・運営する大型商業施設「東急プラザ銀座」の館内物流業務を受託。要員教育や近隣施設、搬入車両の調整、テナント様の出店準備作業を経て、3月31日のグランドオープンを迎えました。

仙台物流センターが竣工

（SBSフレック（株））

東北エリアの三温度帯物流拠点を仙台センターに集約。最新の冷凍冷蔵設備による徹底した温度管理のもと、北海道・東北と関東の中継地点として24時間365日稼働で三温度帯物流を提供しています。

3PLサービス専用「新杉田センター」を開設

（SBSフレイトサービス（株））

広域物流を手がけるSBSフレイトサービスは、横浜市磯子区に本社を移転し、同社初の3PLサービス専用「新杉田センター」を開設。当センターでは、音響機器メーカー様、幼児向け教育関連企業様などからの受託業務を行いました。

「ファインワイン物流」への参入

（SBSロジコム（株））

新杉田物流センターに約2,700坪の定温定湿庫を設け、ワインの中でも特に厳格な温度・湿度管理が求められるファインワインに特化した物流サービス体制を構築。輸入から加工・保管および配送を一括受託するサービスを本格的に開始し、開設からわずか9か月で満床となりました。

CSRへの取り組み

SBSグループは、SBSグループ行動憲章（経営理念・行動基準）に基づき、企業の社会的責任（CSR）に対する取り組みを行っています。

SBSグループ行動憲章

■経営理念

われわれの提案するサービスによって、
お客様に喜ばれ、株主に喜ばれ、
そして社員の幸せにつながる会社を目指す。
企業の永遠の繁栄は、人を大事にすることにある。
みなが生き生きと働くことが繁栄をもたらす。
社会的責任なくして企業の発展はあり得ない。
社会と共に生き、人々に喜ばれ、
広く内外社会の発展に貢献する。

■行動基準

1. 公正で透明性のある企業活動
2. コーポレート・ガバナンスの推進
3. 安全の確保
4. 社会貢献と環境への配慮
5. お客様第一主義
6. 法令・規程の遵守
7. 働きがいのある職場づくり

CSRの課題と取り組み

レベル	重要テーマ	重点項目	推進施策	推進組織	
				共通	テーマ別
社会的課題解決	安全の確保（事故ゼロ）	運輸安全マネジメント 安全意識の徹底 安全対策の強化	安全運転研修 ドライバーコンテスト ヒヤリハット分析 デジタコ/ドラレコ導入 Gマーク認定	CSR推進委員会	運輸安全推進会議
	環境への配慮（CO_2削減・省エネルギー）	【環境対策3つの柱】 エコドライブ（車両） 省エネ（施設） 環境行動（社員）	エコ・安全ドライブ研修 環境配慮型車両 モーダルシフト 省エネ照明導入 再生可能エネルギー創出 半径5mの環境行動		環境経営推進会議
倫理的活動・法令遵守・社会貢献	社会とのかかわり（ステークホルダーコミュニケーション）	人材育成 労働安全衛生 品質管理 社会貢献	グループ統一研修／通信教育制度 産業医カウンセリング 救急救命講習／AED導入 社会貢献表彰 助成事業		安全衛生委員会 SBS鎌田財団
	健全な経営（コーポレート・ガバナンス）	内部統制 内部通報窓口 コンプライアンス教育 リスクマネジメント 情報セキュリティ対策	コンプライアンスツール 職場なんでも相談室・監査役 ホットライン・社外通報窓口 BCP（事業継続計画） 情報セキュリティセミナー		コンプライアンス会議、 リスク管理会議、 情報セキュリティ 推進会議

CSRへの取り組み姿勢

SBSグループはCSRの重要テーマとして、4つの課題を掲げています。運輸業の義務である「安全の確保」を最重要課題とし、「環境への配慮」とともに社会的課題解決責任への取り組み課題に位置付けています。法的・倫理的責任への取り組み課題には「健全な経営」「社会とのかかわり」の2つを据え、コーポレート・ガバナンスとステークホルダーコミュニケーションの推進を図っています。これら4つの課題ごとに推進組織を設け、活動の推進と情報の収集・共有を図っています。また、これらの組織を統括する「CSR推進委員会」があり、グループ横断組織としてCSR活動の推進を行っています。

組織体制

- CSR推進委員会
  - リスク管理会議
  - コンプライアンス会議
  - 環境経営推進会議
  - 運輸安全推進会議
  - 情報セキュリティ推進会議
  - 安全衛生委員会
  - SBS鎌田財団

安全の確保

国内外において総合物流事業を展開するSBSグループにとって、安全・無事故の実現は最重要課題であり、サービス品質の核をなすものです。ドライバーの安全に対する意識や運転技術を高めるとともに、より安全に運転できる環境づくりも進め、事故防止に取り組んでいます。

▶ 2016年度の取り組みの総括と今後の課題

従来からの取り組みの継続として、運転データを活用した要因分析と危険予知、役割に応じた安全教育の実施、安全スローガンの募集・周知による安全意識の浸透、安全運転管理の強化、ドライバーの健康管理サポートなどに取り組みました。特に注力した取り組みとして、運転技術向上への動機付けと最も優れた技術の水平展開を図るため、「SBSグループドライバーコンテスト（ドラコン）」を初めて開催しました。また、Gマーク取得事業所は、前年から6事業所増えました。

2017年度には、安全意識の一層の徹底に努めます。その一環として、これまで手薄だった運行管理者向けの講座を拡充するほか、フォークリフトのオペレーターコンテストも新たに開催します。

主要指標（2016年度実績）

グループ安全教育
20回実施　819人が参加　※各社による教育を除く

運行支援関連機器装着台数
デジタル・アナログタコグラフ　3,245台
ドライブレコーダー　2,169台

Gマーク認定取得率
90%

重大事故件数
4件

2016年度の主な取り組み

運輸安全推進会議開催
4回

各種安全教育の実施
参加人数
819人

グループ燃費目標推進
4.96 km/l

グループ 安全スローガン決定
応募者
5,588人

グループドライバーコンテスト
1 / 3,500人 ＝ 佐々木 周平（SBSフレックネット（株））

■ 重点課題

1. エコドライブ講習による燃費向上および安全運転の意識向上
2. 燃費管理のさらなる精度向上
3. トラック日常点検マニュアルによるドライバー教育指導の推進
4. フォークリフトの日常点検実施および労務における安全の確立
5. 健康起因事故の防止策としてSASスクリーニング検査から治療の再度周知徹底

SBSグループの運輸安全マネジメント

■ 輸送の安全に対する基本的方針

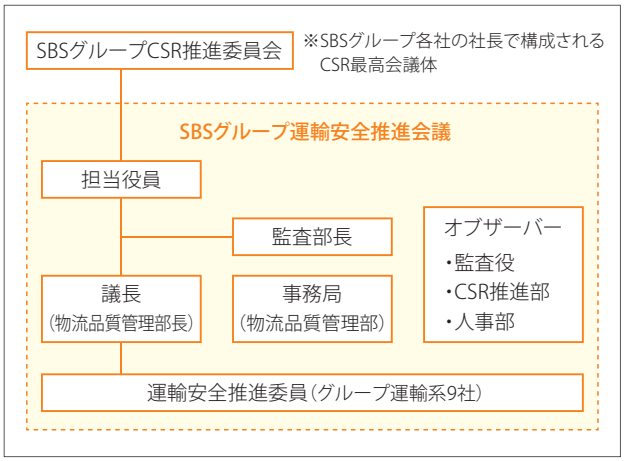
SBSグループは、公道を日々利用する者の責務として輸送の安全に対する基本方針を定め、それに従い安全確保に努めています。

1. 全従業員に対し輸送安全確保が最も重要であるという意識を徹底させ、その実現のために経営トップが主導的な役割を果たし、全社員が一丸となって取り組み、輸送の安全性の向上を図る。
2. 輸送の安全に関する情報について積極的に公表する。
3. 安全に対する基本方針およびそれに基づく目標・計画を従業員に周知徹底する。これに対する周知・理解度アンケートを定期的に確認把握し、安全方針等だけでなく、その周知方法も適宜見直す。
4. プロドライバーとしての意識を高め、関係法令および関係社内規程等を順守するとともに、悪質違反（酒酔運転・酒気帯び運転・過労運転・薬物使用運転・無免許運転・無資格運転・過積載運行・最高速度違反・救護義務違反）を絶対にさせない。

■ 運輸安全推進体制

「SBSグループ運輸安全推進会議」は運輸系各社の運輸安全推進者を中心に構成されるグループの運輸安全を統括する組織体です。安全管理の各種取り組みの企画・推進および運輸安全に係るさまざまな情報を共有しながらグループの安全・無事故を推進し、車両事故・労働災害事故防止に取り組んでいます。

》SBSグループ運輸安全推進体制



事故防止対策

■ 要因分析と危険予知

私たちは常に安全・無事故を目指しています。しかも、それでもヒヤリハット（事故に発展してもおかしくない一歩手前の事象）や事故が起きてしまうこともあります。

SBSグループではそれらの事象を個々に記録するだけでなく、さまざまなファクターから構成される統計情報として保持し、要因分析を行っています。この結果は事故防止対策や安全教育の重要な素材としてグループ各社に共有され、指導・啓発に生かされています。また、ドライブレコーダーの映像はドライバーや運行管理者向けの危険予知トレーニング（KYT）の教材としても利用しているほか、さまざまな場面で幅広く活用されています。

》主な分析項目

- 曜日・時間・入社歴・年齢
- 道路形状・行動類型（車両の動き）
- 原因行動（ドライバーの行動）

■ 健康管理

グループの全ドライバーに対して、定期健康診断に加えSAS（睡眠時無呼吸症候群）スクリーニング検査を定期実施（二次検査フォローも含む）しています。また、SBSグループ全事業所において点呼時に血圧測定を実施するなど、健康起因事故を防止するため、ドライバーの健康管理をより一層徹底しています。

定期SASスクリーニング検査

受診者：**3,500**人　※2015年度に実施

2016年度は2次検査フォローを実施

※一斉検査は前回検査から3年以内に実施しています

■ 安全教育

SBSグループではドライバー、庫内作業者、運行管理者、実務管理者など、それぞれの役割に応じたさまざまな安全教育を定期的に開催しています。2016年度はドライバーコンテストが新たに始まりました。また、2017年度からは主に運行管理者を対象にした講座の開設、フォークリフトのオペレーターコンテストの開催を予定しております。なお、グループ各社においても個々に研修・講座などの教育を幅広く展開することで運輸安全の維持向上を図っています。

グループ安全教育の2016年度実績　※各社個別の教育は除きます　注）KYT：危険予知トレーニング

安全運転研修会・ドライバーコンテスト（運転技能・KYT）：ドライバー	4回（272人）
エコ・安全ドライブ研修（エコドライブ・KYT・健康管理・CSR）：ドライバー、運行管理者	6回（114人）
フォークリフト安全運転研修会（運転技能・KYT）：庫内作業者	4回（59人）
物流品質セミナー（運輸安全・労務管理・安全衛生）：運行管理者、実務管理者	3回（352人）
運行管理者向け一般適性診断活用講座（適性診断）：運行管理者	3回（22人）

Pick up

平成29年度 SBSグループ安全スローガン

毎年、グループ「安全スローガン」をグループ従業員の応募作品の中から決定します。今年度は過去最多の5,588 件の中から選ばれました。

最優秀賞受賞者

SBS ロジコム（株）矢板支店　高橋智裕

東日本大震災から6年が経ち、『物流が社会に与える役割』がいかに大きいかを学びました。「もの」は必要としているお客様に届かなければ、「もの」の価値は発揮されません。その大事な商品を必要としている方へ安全・安心にお届けするのが物流です。その物流の一端を担う一人として、今回のスローガンを応募させていただきました。これからもプロとしての自覚を持ち、日々職務に邁進していきます。

安全対策の強化徹底

■ ドライバーコンテスト（安全運転技術向上）

2016年度より、「SBSグループドライバーコンテスト」の開催を開始しました。安全運転技術の向上はもとより、組織の結束や社内交流の活性化など、当コンテストをきっかけにさまざまなシナジーが生まれ、最終的にグループ・アイデンティティーの醸成につながることを期待されます。

目的

コンテストを通じて、高度な運転技能・点検技術・関連法規についての知識を競い、切磋琢磨することで自己の能力を磨くとともに、代表者として他の模範となることで、ドライバーとしての社会的責任を啓発する。

» 開催DATA

日　時	2016年11月13日（日）9:00～17:00
場　所	佐川急便綾瀬研修センター
参加者	出場選手：21名、関係者：142名　計：163名
競技種目（4t車使用）	①日常点検　②学科試験　③運転実技

■ 安全運転管理

SBSグループでは、安全意識の向上と安全運転管理の徹底を図るために「デジタルタコグラフ」と「ドライブレコーダー」の導入を推進しています。また、上記運行支援関連機器以外にも衝突回避支援や走路逸脱防止など、安全運行に係る最新技術情報を運輸安全推進会議を中心に共有し、車両導入時の参考にするなど、安全対策強化に努めています。

運行支援関連機器装着台数

デジタルタコグラフ	1,968台
アナログタコグラフ	1,277台
ドライブレコーダー	2,169台
バックアイカメラ装着	2,521台

■ 安全衛生管理

労働安全衛生には十分な配慮を心掛けています。適正な管理の維持に努めるため、各種監督・検査などを実施しています。

- **業務監査**
  年1回（監査部門）
- **巡回フォロー**
  年1回（運輸安全マネジメント部門）
- **事業所自己点検「安全衛生管理チェックリスト」**
  年3回
- **労働安全衛生運動**
  年1回

■ 安全の証

各事業所の安全管理体制適正化と信頼性アップを目的に、グループを挙げてGマーク認定（安全性優良事業所）取得を推進しています。Gマーク認定は、より安全性が高いトラック運送事業者にのみ与えられる安全の証です。2016年度は前年までの116から122事業所に増加し、グループ全体の取得率は90%に達しています。

Gマーク認定取得率

90%
（+7%）

国土交通省が推進する「安全性優良事業所」の認定制度。利用者がより安全性の高い事業者を選びやすくするとともに、事業者全体の安全性の向上に対する意識を高めるための環境整備を図るため、事業者の安全性（交通安全対策など）を正当に事業所単位で評価し、一定の基準をクリアした事業所を認定し、公表する。なお、評価は全国貨物自動車運送適正化事業実施機関である公益社団法人全日本トラック協会が行う

環境への配慮

地球温暖化をはじめとする環境問題へ企業としていかに取り組むかは、社会からの信頼や市場競争力を左右する重要な経営課題です。SBS グループでは、主力事業である物流を中心に環境負荷の軽減に注力し、地球環境の保全に貢献していきます。

▶ 2016年度の取り組みの総括と今後の課題

当社グループでは、より環境効率の高い物流を提供していくため、環境アクションプラン2017で「2017年までに、CO_2排出量を2009年比15%以上削減する」という目標を設定するとともに、売上高当たりのCO_2排出量も算出しています。2016年度実績は、いずれも前年度からは微増しましたが、基準年（2009年）からは排出量が8%、原単位が27%低減しています。

CO_2排出削減への取り組みは、エコドライブ（省燃費走行）を中心に推進。教習（エコ・安全ドライブ研修）と実地（手書き燃費記録）を通じた浸透をさらに進め、教習の受講者は2016年度までに1,366人に達しました。環境配慮型車両の導入、モーダルシフト、再生可能エネルギー創出などにも引き続き取り組みました。

2017年度以降は、従来の対策をさらに推進しつつ、グループ全体でのエコタイヤの導入促進や3R（リユース、リデュース、リサイクル）の推進にも取り組みます。

主要指標（2016年度実績）

エコ・安全ドライブ研修受講人数
114人

環境配慮型車両導入数
462台

鉄道貨物輸送量
229,815t

再生可能エネルギー発電量
1,085万Kwh

CO_2全体排出量
2009年比 **8.62**%削減

CO_2売上高（1億円）あたり排出量
2009年比 **27.52**%削減

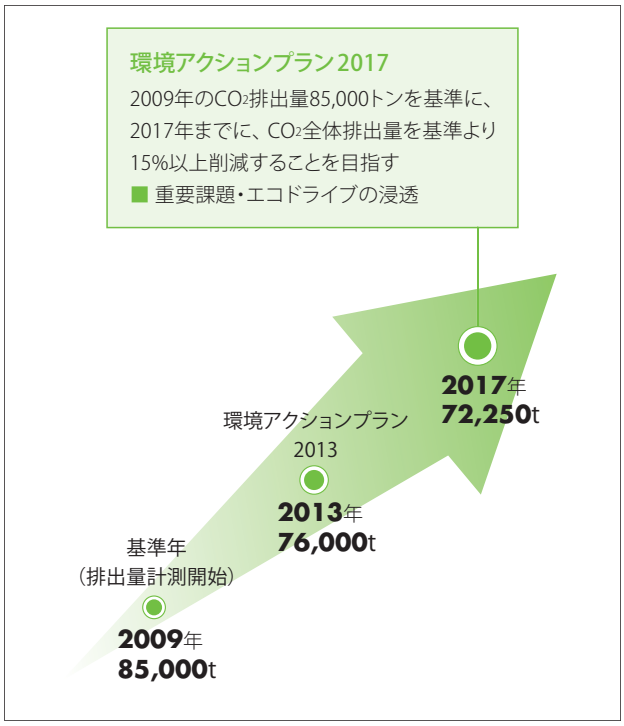
SBSグループの環境負荷軽減の考え方

SBSグループでは、環境への配慮を企業経営の重要課題のひとつと捉え、「車両」「施設」「社員」の 3つの経営資源に着目、「環境対策3つの柱」としてそれぞれの取り組みを推進しています。

また、中期環境計画「環境アクションプラン(2011年より実施、現在は第二期)」を掲げ、グループ全体で CO_2排出削減に取り組んでいます。

》環境対策3つの柱

》環境アクションプラン



SBSグループの環境マネジメント

■ 環境方針

SBSグループでは以下の「SBSグループ環境方針」に基づき、グループ一丸となって、環境経営に取り組みます。

》SBSグループ環境方針

【基本理念】

SBSグループは、環境への配慮を経営の重要課題のひとつに位置付け、事業に伴う環境負荷の低減および事業を通じた環境改善への取り組みを推進し、よき企業市民として環境の保全に努めます。

【基本方針】

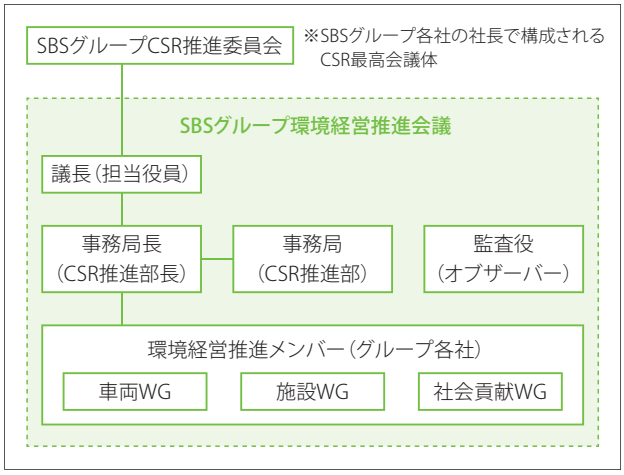
SBSグループは国内外におけるさまざまな事業活動を行うにあたり、以下の方針に従い、グループ会社が協力して本規程の基本理念の実現に努めます。

1. 国内外の環境法令を順守します。
2. 自然環境の維持・保全に十分配慮します。
3. 資源・エネルギーの有限性を認識し、有効活用に努めます。
4. 環境保全を推進する体制を整え、教育・啓発などを積極的に進めます。
5. 本理念と本方針をSBSグループで働くすべての人に周知するとともに広く開示します。

■ 環境経営推進体制

「SBSグループ環境経営推進会議」はグループ各社からの推進メンバー（部長職以上）で構成されており、環境方針に基づく環境計画の策定および車両・施設を中心とした環境対策の方針策定ならびに企画・立案・推進を行います。また、各対策ごとに3つの部会（WG＝ワーキンググループ）が設けられており、具体的活動および対策の企画・推進が行われています。

》SBSグループ環境経営推進体制



課題と取り組み

■ SBSグループが取り組む環境課題

SBSグループでは「車両」「施設」の対策を中心に各種課題に対する取り組みを展開しています。

地球環境課題	SBSグループの取り組み
温暖化	省電力、再生可能エネルギー創出、エコドライブ推進、環境配慮型車両導入、モーダルシフト、エコタイヤ推進、行動啓発
大気汚染	環境配慮型車両導入、老朽車両の低減
オゾン破壊	フロン排出抑制法への対応
資源循環	全社的3R推進（2017年度から試行予定）、リトレッドタイヤ推進、行動啓発
森林保全	FCS認証の使用、保護団体への賛助、ペーパーレス推進
水問題	節水、行動啓発

■ 車両の取り組み

日々 3,000台以上の車両を走らせているSBSグループにとって、車両からのCO_2排出量は、年間全体排出量の約80%に及びます。その排出量削減の取り組みの軸となるのがエコドライブ（省燃費走行）です。SBSグループでは、エコドライブの浸透を教習*1と実地*2の二軸で推進することで、より深いエコドライブの浸透を図っています。また、事業場における車通勤者に対してもエコドライブのすすめを積極的に行っています。これらの取り組みにより、実走行燃費の向上を実現させていることに加え、行政からも高い評価を受けています。

＊1：エコ・安全ドライブ研修（グループで実施しているエコドライブ教習で、これまで1,300人以上が受講）
＊2：手書き燃費記録：乗務員が"給油量""走行距離""燃費"を自ら手書きで記録することにより、自分の走りを把握することで、燃費走行への意識向上を図る

エコドライブ受講人数

1,366人（2016年12月末現在）

＊上記人数に、グループ各社個別の研修実績は含まれておりません。

ECO DRIVER.

》東京都貨物輸送評価制度

2016年はSBSロジコムが評価を獲得しました！

＊東京都が実施する実走行燃費を中心とした評価制度。評価は、エコドライブ教育の充実ぶり、ドライバーと運行管理者の二人三脚による日々の燃費確認と向上努力、さらに燃費記録の集計・分析の精度などの運営力、そして平均燃費の優劣で行われ、評価獲得が非常に難しいとされる。

■ モーダルシフト

SBSグループではモーダルシフトにも対応しています。モーダルシフトは環境負荷低減のみならず、ドライバー不足にも対応する社会貢献的輸送手段です。なお、SBSロジコムは、2015年に酒販業者の販路のモーダル化推進に参画し、大幅なCO_2削減に貢献。グリーン物流優良事業者表彰を合同受賞しています。

鉄道輸送貨物量

229,815t

2016年度

■ 施設の取り組み

既存の大型センターと新規センターを中心にした省電力照明（LED・無電極ランプなど）導入など、各種節電対策による施設の省電力化を推進しています。省電力照明導入事業所は2016年度末時点で20箇所を超え、その効果が目に見えるものになってきています。2017年度からはさらに重点を置き、推進していきます。

省電力照明導入事業所
（一部導入も含む）

22事業所

※年間約150tのCO_2排出抑制

■ 再生可能エネルギー創出

2箇所の発電専用施設に加え、12箇所の物流施設に発電設備を備え再生可能エネルギーの創出を行っています。合計発電量（推定）は1,085万Kwhで、化石燃料を使用した場合の発電と比較し、年間約3,500 t のCO_2排出抑制に寄与しています。

■ 社員の取り組み

SBSグループでは、従業員一人ひとりに環境への配慮を促すため、スローガン「半径5mの環境行動」を掲げ、6つの環境行動の実践を呼びかけています。「半径5mの環境行動」ポスターは、毎年デザインを一新し、COOL BIZ開始時期に全事業所に掲示されます。

5年目を迎え、今やグループの風物詩ともなっている環境行動を表したポスター。2017年版は環境対策の重要課題である“節電”と“エコドライブ”をクローズアップしています。

》省エネ＆事業継続機能を兼ね備えたセンター

新杉田物流センター
延べ床面積：38,252㎡（11,571坪）
全館LED照明
太陽光発電：年間発電量（予測）111万1千kWh
非常用発電装置（72時間連続運転、燃料補給ありの場合）

》環境行動ポスターとスローガン

私たちは
- 電気を大切に使います。
- 水を大切に使います。
- エコドライブを徹底します。
- COOL BIZを実践します。
- 紙を減らす工夫をします。
- ゴミを減らす努力をします。

■ 資源循環サポート

SBSグループでは資源循環もサポート可能です。SBS即配サポート（株）は廃棄物やゴミの収集・運搬を専門とした静脈物流事業を行っています。中間処理工場も自社で保有しており、廃棄物の分別、解体、破砕、圧縮および再び素材、原料に戻す再生資源製造が可能です。素材として再利用できないものは工業原料やエネルギーとして活用するなど、徹底したリサイクルを行うことが特徴です。

》資源循環サポート(SBS即配サポート（株）)

中間処理工場を２拠点保有。
廃棄物の運搬、解体、分別、破砕、圧縮および資源の再資源化活動

保有設備 50ｔトラックスケール、破砕機、圧縮機、溶融機
フロンガス回収装置、磁気記録媒体破壊装置、物理破壊装置

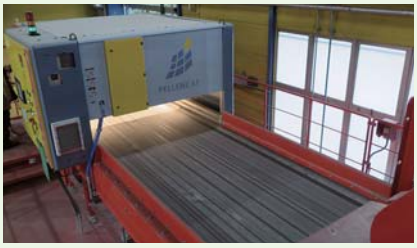
※ISO14001、ISO27001

Pick up

産業廃棄物中間処理プラントを刷新、能力拡大

2017年より処理プラントを刷新。効率化と再生原料化率を向上させました。高性能破砕機はインバータ型の二軸破砕機で、従来より処理能力が３倍に拡大し、硬質物から軟質物まで広範囲な素材の廃棄物が処理可能になりました。また、新たに導入した光学式選別機は、プラスチック、繊維など材質別に選別可能となり、再生原料化率が高まりました。

二軸破砕機

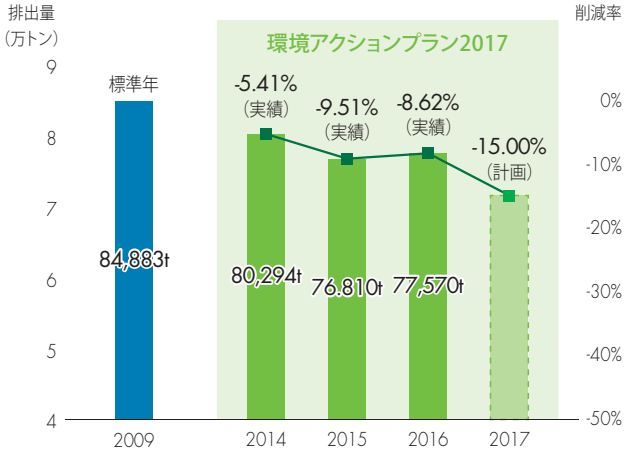


光学式
選別機

2016年度CO_2排出量

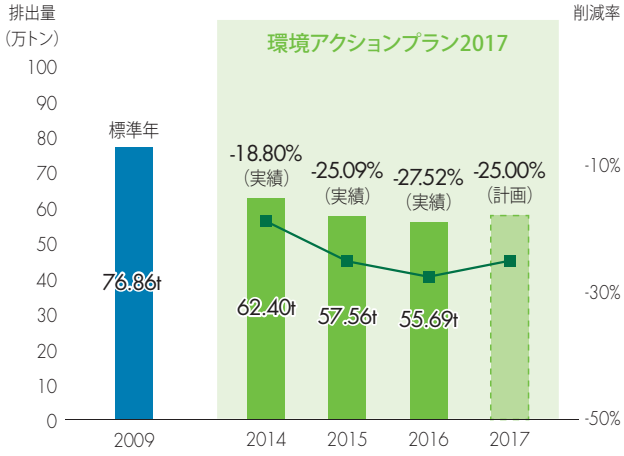
■ 全体排出量

2016年度のCO_2全体排出量は前年比＋0.89％（基準年（2009年）比-8.62％）という結果になりました。



■ 売上高（1億円）当たり排出量

売上高（1億円）当たり排出原単位においては基準年比－25％以上を維持しており、当グループの環境対策が機能しているものと評価しています。



社会とのかかわり

私たちSBSグループは、経営理念に則り、社会と共に生きることを事業活動の大原則としています。社会を構成し、支える一員として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを大切にし、社会との調和、安心と信頼の関係構築への努力を重ねています。

▶ 2016年度の取り組みの総括と今後の課題

ウェブサイト、IR活動、広報活動などを通じたコミュニケーションを強化したほか、さまざまな媒体を通じた従業員とのコミュニケーションにも取り組みました。また、社会貢献活動の一環として、地域の交通安全活動への協賛・協力を継続し、熊本地震への支援も実施しました。社会インフラである物流の学術研究を支援するSBS鎌田財団の活動も2年目となり、着実に研究成果が生まれています。

2017年以降も引き続き、当社グループの事業特性を活かした社会との関係づくりに取り組んでいきます。社会貢献活動への社員参加の拡大についても検討を進めます。

主要指標（2016年度実績）

SBSグループ研修実績
2,857 名

SBS鎌田財団　研究助成対象件数
7 件

コミュニケーション

■ ウェブサイトコミュニケーション

SBSグループでは、ステークホルダーのニーズに的確に応えるため、今後もコンテンツの充実および利便性の向上に真摯に取り組み、誠実なウェブコミュニケーションの構築に努めていきます。

サイトにはマルチ言語対応の
自動翻訳機能を装備

SBSグループコーポレートサイト閲覧数

訪問者数：**892,582**件
（184,709件）

ページビュー：**2,724,364**件
（578,631件）

＊（）内はSBSホールディングス（株）

■ IRコミュニケーション

SBSホールディングス（株）は、情報開示ポリシーに従い、法令・規則で定められた情報を適時・適切に開示するのはもちろん、それ以外の情報についても積極的な情報開示に努めています。ウェブサイトにも株主・投資家の皆様向け情報のコーナーを設け、経営方針・戦略、財務・業績情報をはじめとする各種情報を掲載しています。また、機関投資家向け説明会で使用した資料も掲載するなど、公平な情報開示に努めています。

活動内容	当社出席者	開催回数	延べ出席者数・対応件数
決算説明会	社長、財務担当役員、IR・広報部長	2回/年	88名
投資家・アナリスト対応	IR・広報部その他	随時	130件

第31期定時株主総会

SBSホールディングス（株）は、2017年3月28日に第31期（平成28年1月1日～平成28年12月31日）定時株主総会を開催し、付議した2つの議案が決議されました。

決議事項
第1号議案　取締役6名選任の件
第2号議案　補欠監査役1名選任の件

■ メディアコミュニケーション

IR・広報部が、社会的説明責任に基づき、さまざまなマスメディアに対してコミュニケーションを図っています。情報開示にあたっては、適時、適切な情報発信を行っています。

プレスリリース件数

65件

■ 従業員とのコミュニケーション

SBSグループでは、社内報やグループウエアなど、さまざまな媒体を活用し、従業員とのコミュニケーションを図っています。

■ お客様とのコミュニケーション

SBSロジコム(株)が発行している「LOGILINK(ロジリンク)」は、企業や団体、官公庁において物流にかかわる責任者、担当者様向けに、物流のソリューション事例や最新情報など役立つ情報を発信する物流広報誌です。物流現場の仕組み・機能からスタッフの創意工夫や意気込みまでをわかりやすく丁寧にお伝えします。また、都市物流の専門家である編集長自らが都市物流について解説する連載コラムも必見です。

» SBSグループ全従業員向け発行媒体(発行部門)

「グループ報SBS Express」:季刊誌(IR・広報部)
「CSR News」:月刊(CSR推進部)
「コンプライアンス通信」:月刊(CSR推進部)

LOGILINK　vol.06
物流センターをつくる

品質向上

Pick up

ICTを活用した取り組みでトラック輸送を変革する

輸送の生産性を大幅向上 ▶ SBSロジコムがこれまで開発を進めてきたリアルタイム動態管理(トラック輸送の実態を把握する)システム※1が実証実験を経て完成に至りました。これにより、運行管理の可視化と効率化(運行状況の把握、積載効率など)の大幅な向上が見込まれます。

マッチングサービスを提供 ▶ また、上記システムに加え、マッチング機能を開発することで、空車と貨物のマッチングを可能にしました。これは、依頼主の依頼内容に基づき、事前に登録された車両群から最適な車両を自動選別し、運送事業者に配車を要請し輸送サービスを完結させるもので、プラットフォームサービス※2として一般の依頼主、一般の運送事業者への開放を予定しています。

輸送のシェアリングエコノミーを促進 ▶ これらのITを活用した取り組みが、さまざまな事業者が連携する物流ネットワーク構築の契機となり、さらには輸送のシェアリングエコノミー促進につながることを願っています。私たちSBSグループは、これからも持続可能な社会の実現のためにトラック輸送変革に取り組んでいきます。

管理端末にはスマホを利用。専用アプリで利用者登録することで動態管理をはじめ各種機能が使用可能になる

※1　Caspian(カスピアン):動態管理、運行実績、計画入力、空車検索、車両稼働分析機能、自社デジタコ連動等の機能を有する
※2　iGOQ(イゴーク):配車マッチングサービス

社会貢献活動

■ 交通安全活動

SBSグループは、公道を利用するトラック事業者として、交通安全の模範にならなければならないと考えています。安全・安心な交通社会の実現を願い、これからも地域の警察署・交通安全協会・トラック協会が実施する交通安全活動に積極的に協賛・協力していきます。

春の交通安全運動

秋の交通安全運動

■ 安全衛生　救急救命講習を開始

SBSグループでは、「職場・家庭など身近に発生した傷病者の命を守る」をテーマに、心肺蘇生とAED（自動体外式除細動器）使用を中心とした救急救命講習を開始しました。心肺停止者が発生するなどの有事に直面した際、社員自身で適切な行動を取ることができる救命の知識と技能の習得を目的としています。

AEDを使用した一次救命訓練

Pick up

社会貢献表彰制度

SBSグループは、「社会貢献表彰」を実施しています。この表彰は、グループの社会貢献振興に寄与した活動を称え、従業員の社会貢献意識の醸成と活動の活性化を図るものです。

安全・安心な職場づくりへの取り組み（日本レコードセンター株式会社）

日本レコードセンター（株）では、腰痛などの発生が午前中に集中していることから、体を覚醒させるための運動の必要性を検討。その結果生まれたのが、腰痛予防とメンタルの安定化に適した動きを取り入れたオリジナル体操「安全・安心体操」でした。この取り組みは、従業員の健康促進と精神の安定、企業の労災予防と健康経営促進といった多側面のメリットを持つ、まさに安全・安心な職場づくりへの取り組みといえるでしょう。

健康運動指導士監修のもとに
制作された本格的な体操。
映像に参加したのは
日本レコードセンター（株）の従業員。

動きを細やかに
解説したポスター

動物愛護支援への取り組み
（マーケティングパートナー株式会社）

マーケティングパートナー（株）は、日頃の動物愛護支援活動（売上金の一部を寄附など）に加え、4月の熊本地震発生時においても、物資の寄贈・義援金の寄附はもとより、いち早く支援キャンペーンを展開するなど、積極的な支援を行いました。また、顧客の「何かしたい」を気軽に形にできる「寄付券」の販売を開始するなど、取り組みのさらなる充実が見られました。

熊本地震発生後にいち早く
支援チャリティーを展開

マーケティングパートナー（株）が
運営するサイト「pochi」

■ 難民雇用　誰もが働ける職場づくり

SBSゼンツウ(株)習志野営業所では、2015年からミャンマー難民(第三国定住難民)の雇用を受け入れています。当初は4名から始まり、現在では10名まで増えています。今日まで退職者は1人もいません。今では難民で形成されるコミュニティの中でも評判の職場になっており、就労希望者も出ていると聞きます。また、難民支援団体からは、ひとつの成功事例として他企業に紹介されています。この職場には、難民雇用をきっかけに外国人雇用が積極化。現在では全従業員の20%以上を占めています。

■ 熊本地震支援のご報告

【SBSグループ】

・義捐金の拠出　3,000,000円

【マーケティングパートナー株式会社】

・ドッグフード(緊急用代替食)300食
・チャリティによる犬用食品・用品の提供

公益財団法人SBS鎌田財団

SBS鎌田財団は、社会インフラである物流の学術研究を支援し、物流効率化や事故防止などの研究成果をもって産業全体の発展と国民生活の向上に寄与することを趣意として設立されました。

SBS Kamata Foundation　公益財団法人 SBS鎌田財団

》SBS鎌田財団の事業

● 助成事業:物流の振興・発展に資する①学術研究、②研究集会、シンポジウム、セミナー等の開催を対象とします。
※取り組みテーマ例:物流の効率化・貨物輸送の安全向上・物流の仕組みの改善を通じての地球環境負荷の低減(CO_2排出の削減)等

● 助成金額　総額300万円、一件当たり限度額を50万円とします。

詳細は公益財団法人SBS鎌田財団HPをご覧ください。
▸http://www.sbs-kamatazaidan.or.jp/

》2016年度は以下の研究を助成対象に決定いたしました。

所属機関名	職位	氏名	研究課題
千葉工業大学 工学部 機械電子創成工学科	准教授	和田 豊 (ワダ ユタカ)	ドローンによる長尺物の輸送方法に関する研究
流通経済大学 流通情報学部	教授	矢野 裕児 (ヤノ ユウジ)	物流事業者の地域における社会貢献活動の展開に関する研究
早稲田大学 商学部	教授	田口 尚志 (タグチ ナオシ)	米国太平洋沿岸北西地域における2010年版インコタームズに基づく貿易定型取引条件に関する研究
関東学院大学 専門職大学院法務研究科 実務法学専攻	教授	村田 輝夫 (ムラタ テルオ)	物流事業における在庫等担保融資(ABL)の意義と課題に関する研究
名古屋大学 未来社会創造機構モビリティ領域	特任教授	原口 哲之理 (ハラグチ テツノリ)	第2回自動運転に関する国際ラウンドテーブル
東亜大学 人間科学部	准教授	魏 鍾振 (ウィ ジョンジン)	東アジアにおける国際高速船航路の成立条件に関する研究
城西大学 経営学部	准教授	上村 聖 (カミムラ シカト)	ピッキング作業における生産性向上のための要因分析および改善策に関する研究

健全な経営

SBS グループは、健全な経営を目指し、コーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化を通じて経営の迅速化と効率化を図り、健全性・透明性を確保し続けることで、信頼される企業としてステークホルダーの期待に応えていきます。

▶ 2016年度の取り組みの総括と今後の課題

経営の透明性と客観性の強化に向け、『コーポレート・ガバナンス・ガイドライン』を制定するとともに社外取締役を６名中２名とし、取締役会の活性化に取り組んでいます。また、内部統制の推進により、財務報告の信頼性確保にも引き続き努めました。SBSグループの拡大により重要度が高まっているコンプライアンスやリスクマネジメント（災害対策を含む）にも、従来以上に注力しました。

2017年以降は、取締役会の実効性を高めるための取り組みを進めるとともに、実効性を評価・検証するアプローチを具体的に検討していきます。そして、コンプライアンスについては、役員・従業員が新鮮な意識を持てるようにするための工夫に、リスクマネジメントについては、災害発生時に迅速に対応できるようにするための訓練の強化に、それぞれ焦点を置いて取り組みます。

主要指標（2016年度実績）

社外取締役数

取締役6名中 **2**名

平成28年度財務報告に係る内部統制評価

有効

コンプライアンス相談窓口相談件数

118件

SBSグループのコーポレート・ガバナンス

■ 経営体制

SBSホールディングス（株）の取締役会は6名で構成しており、2015年度より社外取締役を2名とし、経営の透明性と客観性の確保に、より努めています。また、監査役会は監査役3名、うち社外監査役2名で構成しており、取締役会から独立した組織としてグループ会社を含めた取締役の業務執行に関する監査を実施しています。

■ 内部統制システムの整備

「内部統制の基本方針」を策定するとともに、内部統制推進事務局を設置し、内部統制の構築、推進に努めています。統制評価においては、毎年、リスクの再評価および対象範囲の見直しを行い、内部統制の整備・運用と効率的な評価の推進を図っています。SBSグループでは今後も継続して内部統制の改善を図り、財務報告の信頼性確保に努めます。

コンプライアンス

■ マネジメント

「SBSグループ行動憲章」および「SBSグループコンプライアンス規程」を定め、コンプライアンスの体制整備とその推進に取り組んでいます。また「SBSグループコンプライアンスマニュアル」をはじめとする各種ツールをグループ全社員に配布、徹底することで、公正かつ倫理的行動および活動の推進に努めています。

■ 意識向上の取り組み

役員および社員に対し、定期的な研修と情報発信を行うことで、コンプライアンス意識向上を図っています。

■ 相談・通報窓口の設置

グループ社員が職場環境や業務上での問題を気軽に相談できる相談窓口、およびコンプライアンス上の問題を通報できる窓口を設置、運用しています。

SBSグループの相談窓口 ⟹
- 職場何でも相談室
- 内部通報窓口（監査役）
- 外部通報窓口（弁護士）

■ 反社会的勢力の排除

「反社会的勢力への対応に関する基本方針」「SBSグループ反社会的勢力対策規程」および「SBSグループコンプライアンスマニュアル」にその事項を定め、社員への教育および周知・徹底を図っています。

リスクマネジメント

■ グループリスク管理

「SBSリスク管理規程」を定め、経営活動の脅威となり得るすべての事象についてリスク管理の徹底を図っています。リスク管理システムを維持、運営するため、「リスク管理会議」を設置。グループ各社のリスク対策状況のモニタリングを実施し、リスク発生の未然防止に努めています。

■ 情報セキュリティ

「SBSグループ情報セキュリティ基本方針」「SBSグループ情報セキュリティポリシー」を定め、情報セキュリティの維持・向上に取り組んでいます。また、推進機関である「情報セキュリティ推進会議」が各社の対策状況のモニタリングと教育・啓発の推進を行い、セキュリティレベルの堅持に努めています。

■ BCPへの取り組み

「SBSリスク管理規程」の有事のリスク対応に基づき、有事・緊急時の事業継続計画書を作成し、基本方針および各種対応対策を定めています。

事業継続計画基本方針

大規模災害発生時には人命の安全確保を前提に、社会インフラの一部としての物流を中心とした事業活動を行い続けることが当社グループの社会的責任であると考え、ここに「事業継続計画」を作成する。

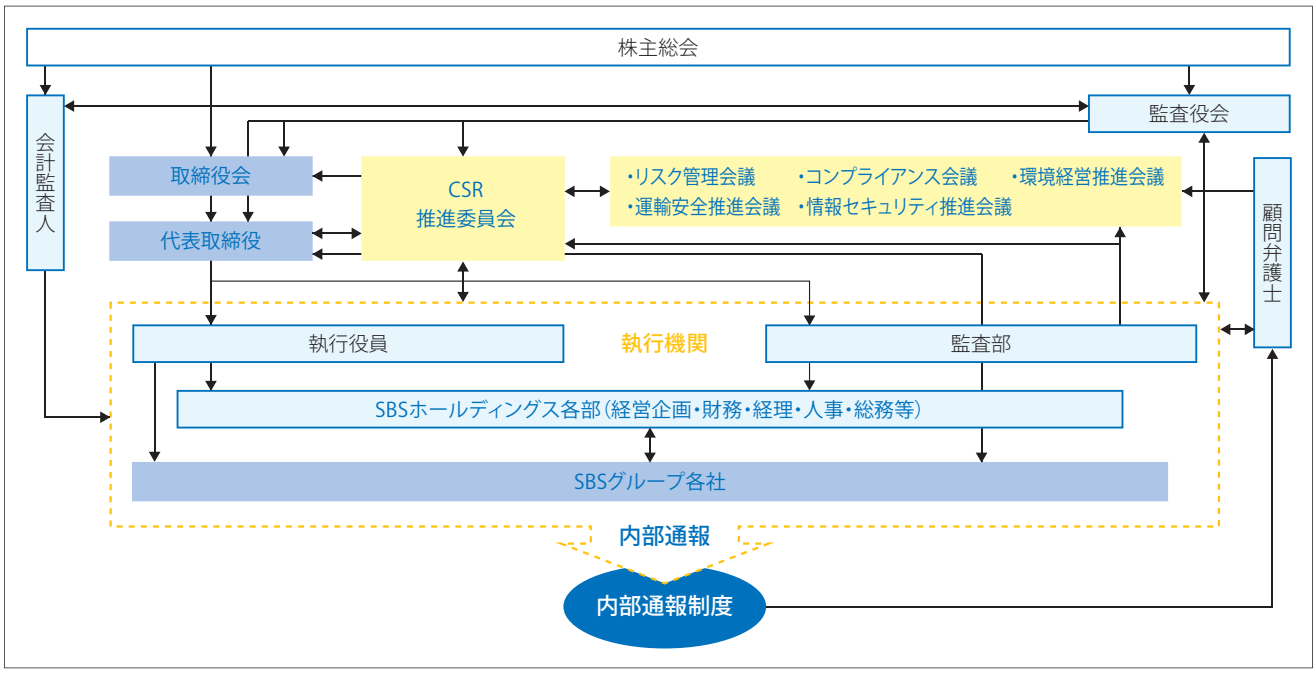
❶人命の安全確保を最優先とする。
❷大規模災害への備えとして、平常時から十分な装備品と備蓄品を確保する。
❸緊急事態対応の訓練を実施し、計画に不具合のある場合や改善が見込める場合はこれを見直す。
❹災害発生時は、役員・従業員の一人ひとりが主役となる。全員が本計画の内容を熟知し、準備し、改善を図ることが、有事の成功を勝ち取る鍵となる。

Pick up

緊急事態対応訓練

SBSグループでは、BCP（事業継続計画）の一環として、大規模地震発生などに備えた緊急時対応訓練を実施しています。この訓練では対策本部・緊急時代替拠点の設営および各社・各拠点の被災状況や安否情報などの情報交換を中心に行います。

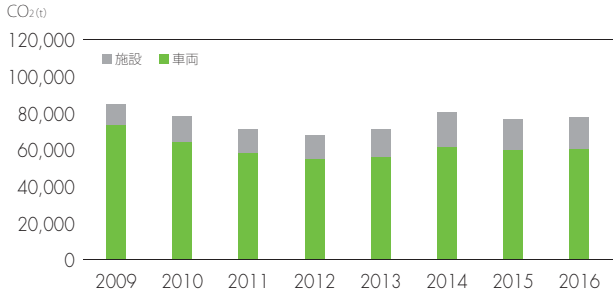
》コーポレート・ガバナンス体制概要図



CSRデータ

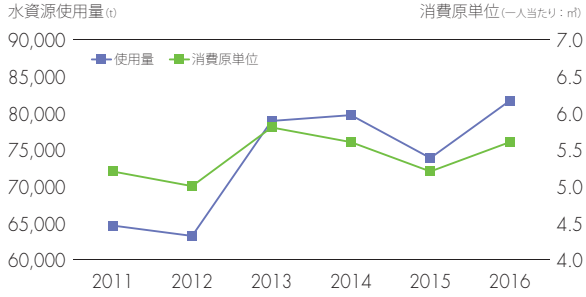
環境への配慮

CO_2排出量



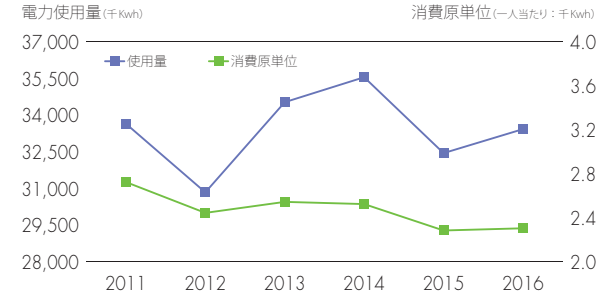
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
施設	11,775	14,186	13,285	13,061	14,879	19,215	17,347	17,366
車両	73,108	63,844	57,895	54,936	56,026	61,079	59,463	60,204
合計	84,883	78,030	71,180	67,997	70,905	80,294	76,810	77,570

水使用量



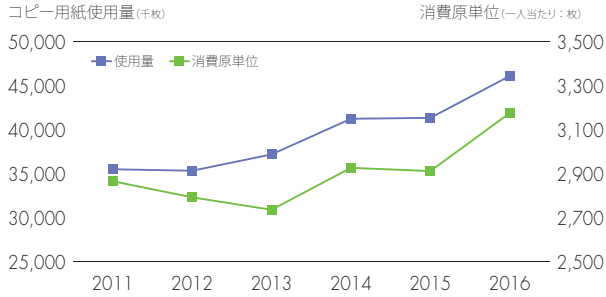
	2011	2012	2013	2014	2015	2016
使用量	64,626	63,211	78,887	79,682	73,828	81,642
消費原単位	5.22	5.00	5.81	5.66	5.20	5.62

電力消費量



	2011	2012	2013	2014	2015	2016
使用量	33,626.218	30,820.887	34,507.69	35,528.163	32,424	33,405
消費原単位	2.72	2.43	2.54	2.52	2.28	2.30

コピー用紙使用量



	2011	2012	2013	2014	2015	2016
使用量	35,455.606	35,285.724	37,142.76	41,191.429	41,295	46,049
消費原単位	2,863.94	2,790.71	2,734.1	2,924.69	2,909.94	3,173.82

環境配慮型車両導入数（2016年度末時点）

（単位：台）

クルマの種類	車両台数
新長期規制適合車	2,524
ハイブリッド車	59
CNG車	54
LPG車	476
合計	3,113

参考：グループ全車両から排出される大気汚染原因物質排出状況
Nox（窒素酸化物）⇒前年比14%減
PM（粒子状物質）⇒前年比23%減

環境関連認証取得状況（2016年度末時点）

認証	会社名（取得数）	合計
ISO14001 （環境マネジメントシステム）	SBSロジコム（4）、日本レコードセンター（1）、SBSフレック（2）、SBSフレイトサービス（15）、SBSゼンツウ（5）、SBS即配サポート（2）	28
グリーン経営認証	SBSロジコム（2）、SBSフレック（3）、SBSトランスポート（3）	7
東京都貨物 輸送評価制度	SBSトランスポート（☆☆☆）、SBSロジコム（☆☆）	2
GPN認証 （グリーン購入ネットワーク）	SBSロジコム ※「エコ商品ネット」の輸配送サービスに認定	1

環境投資

（単位：百万円）

投資項目	内容	2012	2013	2014	2015	2016
車両関連投資	CNG、LPG、ハイブリッド、重量車燃費基準達成車など	1,267	1,886	2,960	2,830	3,250
	燃費改善（エコ・安全ドライブ研修など）	2	2	2	2	2
施設省エネ化などに伴う投資	デマンド監視・省電力照明等	4	1	141	72	9
地球環境保全投資	太陽光発電等	1,382	1,248	629	223	0
環境マネジメント	環境マネジメント登録・管理活動等	-	2	3	3	8
環境コミュニケーション	社内外への啓発・報告資料作成等	3	3	4	5	5
合計		2,658	3,142	3,739	3,135	3,274

再生可能エネルギー送出サイト（2016年度末時点）

品目名称	推定発電量/年（Kwh）	品目名称	推定発電量/年（Kwh）
芝山太陽光発電所	3,065,419	高崎営業所	193,284
芝山第二太陽光発電所	852,432	小田原支店	252,000
野田吉春物流センター	557,546	京田辺物流センター	612,109
千曲物流センター	599,387	長津田物流センター	950,438
川越物流センター	848,260	豊橋物流センター	265,320
君津支店	322,140	新杉田物流センター	1,117,024
吉川支店	267,624	所沢物流センター	954,100

SBS即配サポート静脈物流取扱量（2016年度）（単位：t）

品目名称	全処理量（内SBSグループ）
廃プラスチック類	5,428（202）
再生プラスチック	313（50）
金属くず	1,463（97）
木くず	554（62）
紙類・その他	471（83）
合計	8,229（488）

安全の確保

Gマーク取得状況（2016年度末時点）

会社名	新規取得事業所数	既取得事業所数	Gマーク取得事業所数計	Gマーク対象事業所数	Gマーク取得率
SBSゼンツウ	4	47	51	51	100%
SBSロジコム	1	27	28	33	84%
SBSフレックネット	3	15	18	22	82%
SBSフレイトサービス	1	10	11	15	73%
SBSトランスポート	-	7	7	7	100%
SBS即配サポート	2	6	8	8	100%
SBSグループ合計	11	112	122	136	90%

全国のトラック運送事業所の取得率：27.8%（数値は平成28年12月15日現在　※全日本トラック協会HPより）

社会とのかかわり・健全な経営

人材育成取り組み状況 SBSグループ研修実績（2016年度）（単位：人数）

階層研修	
部長研修	107
管理職アドバンス	21
管理職基礎	31
監督職アドバンス	18
監督職ステップアップ	20
監督職基礎	14
中堅社員	30
社会人3年目	20
新入社員フォローアップ	57
新入社員（総合）	68
新入社員（OJT）	23
現場リーダー強化Ⅰ	11
現場リーダー強化Ⅱ	14
現場リーダー強化Ⅲ	13
現場リーダー強化Ⅳ	13

自己啓発支援	
通信教育	304
eラーニング	71
TOEICテスト	1
ビジネスキャリア検定	19

全41項目
参加実数：2,857名

テーマ別研修	
コンプライアンス強化	841
中途入社	21
中途入社フォローアップ	9
メンタルヘルス	23
管理・監督職物流	19
物流基礎研修	18
営業力強化プレゼン	11
営業力強化ADS	14
OJTリーダー	17
ロジカル・シンキング	11
コミュニケーション	9
物流センター長	11
現場営業力・改善力強化	8
内定者フォローアップ	24

専門テーマ研修	
ハラスメント（管理・監督職）	54
エコ・安全ドライブ	114
安全運転研修会（トラック）	115
ドライバーコンテスト	157
安全運転研修会（フォークリフト）	59
物流品質セミナー	352
一般適性診断活用講座	22
情報セキュリティ	125

品質関連認証取得状況（2016年度末時点）

認証	会社名（取得数）	合計
ISO09001（品質マネジメントシステム）	SBSフレック（34）、SBSフレックネット（29）、SBSフレイトサービス（15）、SBSゼンツウ（17）	95
ISO27001（情報マネジメントシステム）	SBSロジコム、SBS即配サポート（2）、SBSトランスポート	4
プライバシーマーク	SBSトランスポート、SBSスタッフ、SBSフレイトサービス、マーケティングパートナー、日本レコードセンター	5
JAS有機農産物小分認証	SBSゼンツウ	2
引越安心マーク	SBSトランスポート	1

コンプライアンス相談窓口 相談件数（2016年度）※

相談内容	件数
法令・社内ルールに関するもの	53
職場の人間関係に関するもの	27
その他	38
合計	118

※従業員が直接相談できる社内・外に設置された窓口への合計相談数

第三者意見

関西大学社会安全学部
中村隆宏

IT化の進展は、私達の生活の利便性を向上させ、大幅な効率化も実現してきた。確かに、片手に収まる端末の注文ボタンを押すだけで数時間後には必要な商品が手元に届く、といったサービスは、とても魅力的である。しかし一方で、こうした仕組みを下支えする物流の現場では、そのサービスに付随するコストと労力を担わなければならない。サービスを提供する側も享受する側も、こうしたアンバランスな状態が"当たり前の日常"となることを、どれほど望んでいるのだろうか。情報の流れが今後ともますます広範囲に渡り、さらに加速することは疑いない。それに伴い、量的にも質的にも、物流に対する社会的ニーズはさらに高まることとなる。顧客から荷物を「預かり」そして「届ける」といった既存の枠組みのまま、今後ますます高まる物流ニーズに対応しようとしても、既にシステムの限界に達しつつある現状を打破することは困難であろう。

SBSホールディングスの事業展開の中には、既存の枠組みを超えた物流の再定義を可能とする糸口が垣間見える。すなわち、単に「預かる＋届ける」という業態に留まらず、物が創り出される時点から、消費者の手元に届けられ、消費後の回収・リサイクルまでも視野に含めた広範囲な"物の流れ"のマネジメントであり、専門的かつ多種多様な子会社群が結集し様々なジャンルで成果を生み出す"総合物流"である。情報量の増大とともに、今後はますます、「人」と「物」との質的な関わりが重視される中で、誕生から再生までを守備範囲に捉える事業展開は、さらに社会的重要性を増すことだろう。

こうした理念を具体化する上で、SBSホールディングスが掲げる4つのCSR重要テーマ、すなわち「安全の確保」「環境への配慮」「健全な経営」「社会との関わり」は重要な役割を果たしている。個々の取組みの詳細については本CSRレポートの記述に委ねるところであるが、ここでは敢えて、社会貢献活動に位置づけられる「普通救急救命講習」に注目したい。都市部の過密化と地方の過疎化、そして高齢社会の進展に関わる課題は度々指摘されるところであるが、これらの問題は、救急救命の重要性が次第に高まりつつあるとともに、極めて身近な問題となっていることも意味する。より多くの人々がAEDを始めとする救命救急に関する知識と技能を有するようになれば、失われずに済む命は大幅に増加すると期待される。総合物流の担い手達がそのスキルを身に着け、物流網の様々な箇所に配置されることは、疾病者に対する迅速な救急救命措置の可能性を大幅に高めることにつながり、大きな社会貢献の一つとなるだろう。

中期経営計画「SBS Growth 2017」の最終年度を迎えた今年度においては、継続的な取組みがほとんどである。しかし、これは決して否定的な見方ではない。むしろ実質的な充実を図り、組織としての足腰を鍛える段階にある、と理解すべきだろう。いずれも、短期間のうちに目を見張る成果につながる性質のものではなく、むしろある程度の時間をかけてこそ組織に浸透し、成果として発揮される類のものである。その意味で、これまでの活動の真価が問われるのは、まさにこれから、と言える。これまでの蓄積をいかに集約し、次の段階へ向かおうとするのか、今後に期待したい。

編集後記

「SBSグループ CSR Report 2017」をご覧いただき、ありがとうございました。
今年は創立30周年という節目を迎えるにあたりCSR Message "ものを運ぶということ" を掲げました。これは、私たち自身が自らの存在意義を見つめ直すための取り組みであり、また、ステークホルダーの皆様に当社グループの事業活動の本質を理解していただくための試みでもあります。存在意義を常に見つめ直し明確にすることが、人々の暮らしと社会への貢献につながり、ひいては当社グループの社会的価値を高めるものと信じています。

中村先生からは、今回も当社グループの取り組みに対する深い洞察に基づくコメントをいただきました。先生にご注目いただいた「普通救急救命講習」は、受講者からその有用性の高さが評価されている評判の講習です。今後も受講生を送り出し、社会に救命の輪を広げていければと思います。

これからも引き続き、本報告書を通じて皆様との対話を深めていくことができれば幸いです。

SBSホールディングス株式会社　CSR推進部

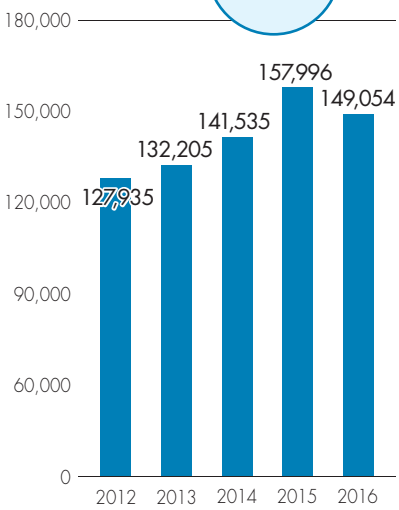
財務報告

2016年度の連結実績

前連結会計年度におけるインド事業会社の損失処理に伴う大幅な減益から一転、V字回復を果たしました。主な要因は、物流施設売却、燃料価格の負担減、料金改定効果等です。また、事業戦略の一環としてユーザー向け広報誌やインターネットでの情報発信に努め、SBSブランドの強化を推進し、新規営業案件の受注獲得に取り組みました。

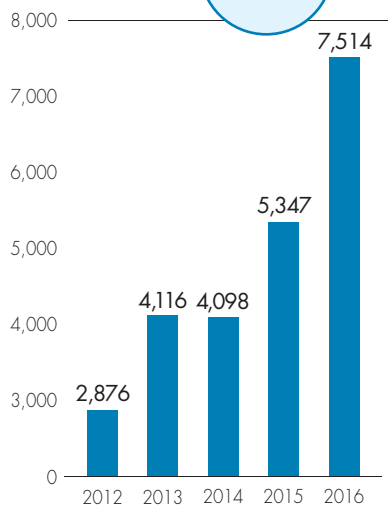
売上高

前年同期比 **5.7**%減



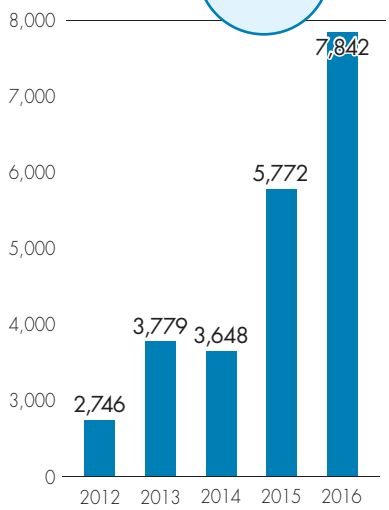
営業利益

前年同期比 **40.5**%増



経常利益

前年同期比 **35.9**%増



セグメント別概要

	2016年通期		2015年通期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
物流事業	132,487	2,266	143,391	2,072
不動産事業	10,278	5,108	8,641	3,292
その他事業	6,288	321	5,963	238
調整額	—	△182	—	△256
合計	149,054	7,514	157,996	5,347

物流事業 当期に竣工・賃借した合計5万坪の物流拠点で3PL案件が順調に稼働し、業務を拡大しました。海外物流事業が縮小した影響から減収となりましたがグループの中核を担うSBSロジコム(株)とSBSフレック(株)が伸張し増益を確保しました。

不動産事業 賃貸料収入が堅調に推移したことに加え、第2四半期に川越物流センターを売却したことが寄与し、大幅な増収増益となりました。

その他事業 人材事業は、人手不足を背景にスタッフの確保が追いつかず機会損失が発生しましたが、マーケティング事業が好調に推移したことから、売上高、営業利益ともに増加しました。

2017年12月期の連結業績予想

売上高
150,000 百万円　当期比 **0.6**%増

営業利益
6,200 百万円　当期比 **17.5**%減

経常利益
6,400 百万円　当期比 **18.4**%減

親会社株主に帰属する当期純利益
4,000 百万円　当期比 **21.8**%減

セグメント別（単位：百万円）

	物流	不動産	その他	調整後合計
売上高	136,500	6,800	6,700	150,000
増減率	3.0%	△33.8%	6.5%	0.6%
営業利益	2,500	3,600	350	6,200
増減率	10.3%	△29.5%	9.0%	△17.5%
営業利益率	1.8%	52.9%	5.2%	4.1%

問い合わせ先

SBSホールディングス株式会社　CSR推進部
〒130-0012 東京都墨田区太平4-1-3
TEL:03-3829-2367　FAX:03-3829-2822
http://www.sbs-group.co.jp

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用したパッケージ FSC® C012257

適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC認証紙を使用しています。

Waterless Printing. Naturally.

有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。

VEGETABLE OIL INK

この印刷物は植物油インキを使用しています。